

[江別市] 施策達成度報告書

政策 04 安全で快適な都市生活の充実

施策 04 市街地整備の充実

主管課 都市計画課

施策の環境変化と課題

施策の環境変化 (22年度)	施策の課題 (22年度)
<ul style="list-style-type: none"> ・大型の商業施設など人が多く集まる施設が、郊外に分散していくような拡散型の都市構造から、生活に必要な施設機能が集約され、適切に配置される集約型の都市構造へと方向転換した取り組みが求められています。 ・少子高齢化の進展により、駅及び駅周辺に、人も施設も各種機能も集まったコンパクトな市街地整備が求められています。 ・中心市街地の活性化などの都市の再生が求められています。 ・駅周辺における市街地整備やバリアフリー化は着実に進めてきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路、公園、上下水道など都市基盤施設の老朽化が進行し、維持管理費などの増大が課題となっています。 ・自動車に依存した都市構造から、歩いて暮らせる都市構造への移行が課題となっています。 ・市街地の低利用地、未利用地における土地の有効活用や開発を促進する誘導策が求められています。

施策の目的

機能的で魅力的な市街地やまち並みを形成し、市民が暮らしやすいまちづくりを目指します。

対象 (誰を対象とした指標か)

市街地

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

機能的で魅力的な街区やまち並みを形成する。

施策の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

施策の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
機能的な「まち」と感じる市民割合	%	65.1	70.0			↗

施策の達成状況 (22年度)

アンケート調査実施年でないため、「機能的な「まち」と感じる市民割合」の成果指標から達成状況を分析することはできませんが、駅のバリアフリー化の促進のほか、鉄道高架事業が目で見えて実感できる状態になってきていることから、成果は向上しているものと推察されます。今後も野幌駅周辺整備の進捗に伴い、成果指標の向上が見込まれます。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	1,165,672	1,071,713	1,349,471
事業費(千円)	787,280	692,893	969,050
人件費(千円)	378,392	378,820	380,421

基本事業の目的

都心地区の整備・充実を図り、より快適な市民生活と経済活動の集積に努めます。

対象 (誰を対象とした指標か)

都心地区(野幌駅周辺地区)

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

市街地の整備充実を図り、快適な都心(中心市街地)を形成していく。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
野幌駅周辺の利便性・快適性に満足している市民割合	%	55.5	60.5			↗
鉄道高架後の南北交通量	台/日	31,898				40,000
中心市街地の店舗延べ床面積	m ²	102,858	102,654	104,479		105,000

基本事業の達成状況 (22年度)

野幌駅周辺における利便性、快適性に満足している市民割合は、アンケート調査年でないため分析はできませんが、今後、鉄道高架の開業を契機として、街路や駅前広場等の整備が本格的に動き出しますので、成果指標の向上が見込まれます。また、中心市街地の店舗延べ床面積については、幹線道路沿道や区画整理区域における店舗立地により、成果指標が上昇しております。今後におきましても、区画整理や街路事業等の計画的な進捗管理を行い、更なる成果指標の向上に努めます。

基本事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	658,986	609,674	882,005
事業費(千円)	526,218	464,594	731,304
人件費(千円)	132,768	145,080	150,701

基本事業の目的

計画的な市街地整備を進めるとともに活性化を誘導し、市街地の土地利用を向上させます。

対象 (誰を対象とした指標か)

市街地

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

- ・市街地の土地利用率が上がる。
- ・市街地外縁部の利点を活かした土地利用を図る。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
土地の有効利用率	%	72.0				75.1
市街地での新規着工戸数 【初期値(H19) 前期4年間 1,444戸(累計)】	戸(累計)		138	322		1,110以上

基本事業の達成状況 (22年度)

土地利用の推進については、市街地での新規着工戸数が鈍化の傾向にあるものの、土地区画整理区域内を中心として、ゆっくりではありますが土地利用が進んでいるものと推察されます。

基本事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	83,190	37,321	37,546
事業費(千円)	28,838	4,678	4,554
人件費(千円)	54,352	32,643	32,992

03 安全で憩える公園の整備

基本事業の目的

市民との協働により公園再整備を進め、さらに市民管理の公園を増やします。また、安全で憩える公園を増加させます。

対象 (誰を対象とした指標か)

公園、地域住民

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

市民と行政の協働により、安全で憩える公園を増加、リニューアル、運営する。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
憩いの場としての公園満足度	%	71.7	74.2			↗
市民と協働で管理している公園数	箇所	68	70	76		80

基本事業の達成状況 (22年度)

憩いの場としての公園満足度の指標はH22年度市民アンケート調査が未実施であることから未取得であるが、市民と協働で管理している公園数が6公園増加しており、このことは公園満足度の向上にも貢献しているものと推察でき、達成状況は上向きとらえています。

基本事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	215,938	221,489	223,967
事業費(千円)	205,980	200,936	211,341
人件費(千円)	9,958	20,553	12,626

04 人にやさしくわかりやすい街並みづくり

基本事業の目的

美しい都市景観づくりや施設のバリアフリー化を進め、人にやさしい施設、わかりやすく景観に配慮した街並みをつくります。また、駅及び駅周辺、特別特定建築物などの関連整備を図り、利便性の高い機能的なまちをつくります。

対象 (誰を対象とした指標か)

市街地、駅及び駅周辺の建物等

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

人にやさしい施設、わかりやすく機能的かつ景観に配慮した街並みになる。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
まち並みがわかりやすいと感じる市民割合	%	66.3	69.2			↗
駅及び駅周辺においてバリアフリー等利便性の向上が進んでいると感じる市民割合	%	84.0	89.5			↗

基本事業の達成状況 (22年度)

成果指標である「まち並みがわかりやすいと感じる市民割合」及び「駅及び駅周辺においてバリアフリー等利便性の向上が進んでいると感じる市民割合」は、「まちづくり市民アンケート」が実施年でないため、指標値未掲載。平成22年度に野幌駅のバリアフリー化工事を開始し、市内主要駅のバリアフリー化が進んでいます。

基本事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	15,234	11,752	12,434
事業費(千円)	6,935	2,886	3,473
人件費(千円)	8,299	8,866	8,961